

ワタキューグループCSRトピックス

ワタキューグループは、地域社会や環境などの社会課題の解決に向けて、さまざまな取り組みを進めています。

地域社会

安全

佐倉工場は、地域活性化に貢献する、働く人にやさしい工場です



2016年7月、千葉県をはじめとする南関東地区の新たな生産拠点として、佐倉工場が稼働を開始しました。就業人員は約160名。地元での雇用創出はもちろん、企業立地促進、生産年齢人口の流入を重要施策としている佐倉市への派生経済効果も含め、地域への貢献が期待されています。

佐倉工場は「人にやさしい工場」を目標に、古久根建設の設計・施工で建設が進められました。安全柵、キーロック、パイロットランプの設置、無人ラインのモニターでの監視など、基本的な安全のための設備を網羅しています。洗剤原液の自動投入システム、バッチワッシャー(洗濯脱水機)はパススルー式全自動を採用するなど、安全確保と省力化を目的とした新しい設備の導入も行いました。

また、天井近くにエアシューターを配管、全乾燥品をエアシューターにて仕上げ場へ搬送することで、省スペースと効率化に。換気量を多く、換気方向を一方通行にすることで、風を感じられる涼しい工場に。さらに工場内に保育施設を設置、畳敷きの休憩スペースなど、働きやすい環境を整備しています。

環境面への配慮としては、天然ガスボイラの採用をはじめ、工場内全ての洗濯排水熱を回収するシステム(連続洗濯機からの排水熱で給水を温め、ボイラエネルギーコストを削減)、エネルギー効率の高いガス式全乾燥機などの導入により、省エネルギーを図っています。排水処理施設には、急速濾過装置、活性炭吸着装置(水質に問題ないため未使用)を設置して基準を厳守。将来の

排水基準にも対応可能となっています。

佐倉工業団地連絡協議会に加盟し、会合や清掃活動に参加するなど、地域とのコミュニケーションも積極的に行い、快適で安全な工場で、働く人に魅力のある職場とし、人材の確保にもつなげていきたいと考えています。



使用した水は可能な限り再生、再利用します。排水も定められた基準を厳守しています



最新の省エネ型ボイラ



広く明るい食堂

概要

住 所：千葉県佐倉市太田2464-1
構 造：鉄骨造 地上4階建
延べ床面積：約15,175㎡
生産処理能力：最大40t/日(病院リネン25t、ホテルリネン15t)

社会

品質

食べる楽しみをいつまでも提供するために、安全に配慮した介護食を追及しています

日清医療食品は、噛む・飲み込むことが困難な方々にも、食事を楽しんでいただけるよう「ムース食」を2004年に開発。また、2016年には刻まない介護食「モバイルプラス やわら御膳」を開発しました。調理法の工夫や各種測定による数値化により、安全に配慮された“刻まない”高齢者食「黒田式ソフト食」の理論を用い、安全かつ見た目に美しく、味もおいしい料理が提供できる、新しい介護食です。

近年、高齢者向けの食事は「ユニバーサルデザインフード」として注目を集めており、農林水産省は食事サービスも含めた介護食品の潜在的ニーズを2.8兆円と試算しています。その中で2015年12月、アンテナショップ&レストラン「nu dish Mousse Deli & Café」を東京・銀座にオープン。2016年2月には、ノルウェー王国から食品調理技術研究機関の研究者とその関係者が来店され、「ムース食」のアレンジメニューや介護食の試食会を行いました。



「きざみ食」(左)と「モバイルプラス やわら御膳」(右)の比較とんかつの場合



東京・銀座四丁目にある「nu dish Mousse Deli & Café」

社会

品質

セントラルキッチンで、効率的に安定した品質の食事サービスを提供



ヘルスケアフードファクトリー亀岡

概要

住 所：京都府亀岡市大井町並河亀ヶ淵48,46

「ヘルスケアフードサービスセンター京都」

建物面積：1,980㎡

製造数：10,000食/日

「ヘルスケアフードファクトリー亀岡」(2017年12月稼働予定)

建物面積：15,200㎡

製造数：100,000食/日

2015年10月、京都府亀岡市にて、日清医療食品では5カ所目となるセントラルキッチン「ヘルスケアフードサービスセンター京都」が稼働を開始しました。従来の施設内調理から集中調理へ移行により、少子高齢社会における労働力不足に対応し、全国のセントラルキッチンの献立を共有することで、安定した品質を確保し、不測の事態での供給力の確保や品質の恒久維持に努めます。

2017年8月には、同センターに隣接して「ヘルスケアフードファクトリー亀岡」が竣工。同社ブランド「モバイルプラス」の1日10万食の製造を見込む、国内最大規模のセントラルキッチンです。「モバイルプラス」はクックチル方式(調理加熱後、急速冷却し、チルド帯で保存・配送。提供時に再加熱する調理方法)により調理し、契約先へ配送する食事サービスです。献立作成・発注・検収・下処理・調理などはセントラルキッチンが担い、病院さま、施設さまの厨房では、再加熱や和えるなどの簡単調理のみ。少ない労働力で、医療・福祉版の常食・全粥・各種禁止食、さらには行事食など多彩なニーズに合わせた食事提供が可能です。

新工場はビジネスモデル転換のフラッグシップと位置づけ、無人配送車・コンベア・自動倉庫などの最新設備を導入、工程の自動化・ライン化を図ることで、徹底した効率化・省人化を追求し、働きやすさや快適性にも配慮しています。2017年12月の本格稼働に向けて、近隣地域からの採用を進めるとともに、災害時の施設利用の協定を締結するなど、地域への貢献にも取り組んでいます。

環境

地球温暖化対策・自然環境保全に取り組んでいます



環境負荷を低減すべく設備更新を進めている沖縄綿久寝具



自然環境に配慮した事業活動に取り組む 近隣の畑へ農業用水を提供

沖縄綿久寝具(宜野湾市)は2016年2月、主力工場である中城工場のボイラ用燃料をA重油からLNG(液化天然ガス)に切り替えました。沖縄電力がLNGを燃料とする吉の浦火力発電所を整備したことから、沖縄電力グループのグループ会社プログレッシブエナジーより、発電所から約1.3kmの導管を敷設しての供給が可能となりました。ボイラの更新によるCO₂削減量は年間約1,800t(12万8,500本の杉の木が吸収する量に相当)。国が認証する「J-クレジット制度」に参加し、J-クレジット創出者となりました。クレジットは県内の事業で排出されるCO₂のカーボンオフセットに利用されることで、観光立県を目指す沖縄県の温暖化対策・自然環境保全に貢献するとともに、離島観光振興をはじめとした沖縄振興につながると考えています。

また、中城工場で使用した水はリサイクル水として敷地内緑地帯への散水、車両の洗車、トイレなどに利用するほか、近隣の畑や、マンゴーなどのビニールハウス栽培の農業用水として、無償提供を行っています。近隣で実施されている清掃活動への参加、工場周辺の清掃、村道の草刈りなど、地域の環境保全にも積極的に取り組んでいます。

環境

創業地井手町での「大正池森林保全支援活動」は10年目を迎えました

2008年に第1回の活動を開始、翌2009年の京都府・井手町・京都モデルフォレスト協会・井手町豊かな緑と清流を守る協議会との五者協定「森林の利用保全に関する協定」の締結を経て継続してきた大正池森林保全支援活動。2017年10月14日の活動で、全体活動としては第18回目を迎えました。グループ社員と家族、自治体やNPO法人の皆さまとともに、近年では毎回150名前後の規模で実施しています。

北海道支店では、おたる自然の村周辺の「ワタキューの森」にて、2014年9月より森林整備活動を開始しています。地元の森林組合のご協力もいただき、2017年9月9日には、第4回の活動を実施しました。現地では景観や保全状態の向上など、活動の効果がみられるようになってきています。今後も地域の環境保全に継続して取り組んでいきます。



第18回大正池森林保全支援活動は、約150名が参加しました

地域社会

環境

地域クリーン活動の取り組みが評価され、表彰を受けました



2017年10月12日 京都駅前広場での「地域防犯功労団体表彰」式典の様子

ワタキューセイモアでは、2007年7月よりCSR活動の一環として、周辺地域の環境美化、近隣住民の皆さまとのコミュニケーションを図るという主旨のもと、全国の拠点で地域クリーン活動を実施しています。定期的に事務所や工場周辺の清掃活動を行うほか、自治会やボランティア団体などが主催の清掃活動や草刈りに参加するなど、積極的に取り組んでいます。

2017年10月12日、「世界一安心安全・おもてなしのまち京都」運動プログラムに基づき京都府下京警察署が主催する、「おもてなしのまち下京区 安心安全強化活動～2017秋の陣～広報啓発活動」において、本部社員による10年間の活動、回収ゴミ281.02kg、延べ参加人数1,113名の実績が評価され、「地域防犯功労団体」として感謝状を受けました。今後も地域社会の一員としてのこの活動を継続し、地域への貢献を目指します。

地域社会

安全

地域に密着する企業だからこそ、地域行政機関との連携を大事にしています



亀岡市総合防災訓練にてヘリコプターを用いての空輸訓練



亀岡警察署署長とヘルスケアフードファクトリー亀岡工場長との調印式の様子

日清医療食品は、2017年8月26日、「平成29年度 亀岡市総合防災訓練」に参加、緊急物資輸送としてヘリコプターを活用して濃厚流動食の空輸訓練を実施しました。展示ブースでは、空輸訓練で搬送した濃厚流動食の地域の皆さまへの配布や、過去の災害時の対応をパネルにて展示しました。

また、10月17日、京都府警察亀岡警察署と、「災害時における施設等使用に関する協定」を締結しました。災害時に亀岡署の庁舎が被災するなど、機能が維持できなくなった場合に、「ヘルスケアフードファクトリー亀岡」（2017年8月竣工、12月稼働予定）の会議室および社員食堂の一部と社員駐車場を代替施設として使用する、というものです。同工場は駐車場にヘリポートを設置、壁を地面に直接埋め込むなどの耐震化を施しています。

日清医療食品は、災害対応の4つの柱として、①非常用備蓄倉庫の設置 ②災害時献立の考案 ③ヘリコプター運用会社との契約締結 ④通信手段の強化を推進し、体制を整えています。地域の皆さまの安心・安全への貢献とともに、日本の医療・福祉を支える一員として、さまざまな防災・災害対策にこれからも積極的に取り組んでいきます。

社会

品質

安心・安全な材料を安定的に確保することは、 品質保証の第一歩です

日清医療食品は、パプリカなどの農産物の企画・生産・販売を手掛けるリッチフィールド栗原(宮城県)に出資しています。2015年8月には、日清医療食品のグループ会社である米穀など卸販売のアグリック(熊本県)が、米・野菜生産を行う農事組合法人 結いの里浦方(熊本県)に出資しました。これらは、安心・安全、安定的に食事サービスの提供を行うために、自社の品質管理のもと、生産者の顔が見える仕入れ体制を構築する取り組みの一環です。

食事サービスの提供事業者として、農業生産現場との協働は今後ますます重要となっていくと考えます。日本の農業は、従事者の高齢化、次世代の担い手不足、栽培技術の継承の停滞など、さまざまな課題があります。地域の生産者との協力体制を築きながら、安心・安全・継続的な食事サービスの提供を行うとともに、国内の農業や地域社会の活性化に貢献していくことを目指しています。



最先端の農業技術を導入し、パプリカを年間約300トン生産
(リッチフィールド栗原)

産学連携

現場での経験に基づく、 説得力のある情報を 提供する場を設けています

2017年10月7日、トラストシティカンファレンス・仙台にて、「ワタキューセイモア感染管理セミナー in 仙台」を開催しました。ワタキューセイモア主催によるセミナーは、2014年沖縄開催の第1回から毎年継続、今回は4回目の開催です。2回目の開催より、日本医療機器学会滅菌技師/士の単位(5単位)の取得講座として認定をいただいています。プログラムは、医療施設の廃棄物処理、環境整備/清掃をテーマにしたシンポジウム(4演題)と、医科大学や病院の先生などを講師に招いた講演を3つ行いました。感染管理は病院さま施設さまにとって非常に関心が高いテーマであり、現場で活用できる内容も多いと毎回好評をいただいています。

また、医療、滅菌・感染管理などをテーマとした、学会や研究会、病院職員向け勉強会などでの社員の発表活動



ワタキューセイモア感染管理セミナー in 仙台 の様子

も、昨年度は20件と積極的に行っています。社内での認知も進み、社員のモチベーションアップ、知識・業務水準向上につながっています。

リネンサプライ業・請負業務で得た経験や知識は、サービスを提供する病院さま施設さまへ情報提供することが必要であり、協働(共同研究)したことは、医療全体の質向上へつながる、という理念のもと、これまでの取り組みの質をあげて継続して行い、お客さまと一緒に業務改善や開発・研究などにも注力していきたいと考えています。

社員

古久根建設が進める健康経営 社員の健康は会社の財産

健康経営とは、その企業の経営理念に基づき、社員の健康保持、健康増進、そしてそれを実現する職場環境の整備を経営の一環として行うことです。

少子高齢化が進む中、企業を支える人材の確保は、その企業が持続可能な事業活動を行っていくためには必須の要件となってきます。そこで古久根建設では、2016年7月、「古久根建設は、社員の健康第一の風土醸成を通じて経営を推進し、社員一人ひとりが心身とも健康でいきいきと働ける職場づくりに努めます」と、鈴木眞一社長が健康経営宣言を行いました。

2017年9月には東京の健保連より「銀の認定書」を受けました。第77期の健康経営計画に基づき、健康診断100%受診、特定保険指導、40歳以上の脳ドック完全受診など具体的な目標を掲げて健康経営を推進しています。「休みをとろう!プロジェクト」とともにPDCAサイクルを回して、継続した健康づくりを目指しています。



基準の達成が認められた企業に交付される「銀の認定証」と、休みをとろう!プロジェクトカレンダー

次世代

世界におけるソフトテニス競技の普及、 スポーツ支援に注力していきます



2017年10月、えひめ国体で京都チームが準優勝



2017年5月開催のWATAKYU-CUPポーランド大会

2017年10月、えひめ国体 ソフトテニス 成年女子の部で、選手全員がワタキューセイモアソフトテニス部のメンバーである京都チームが準優勝を収めました。ソフトテニス部は1995年創設、現在は男・女ともに日本最高峰の「日本リーグ」に所属しています。ジュニア向けの講習会や、国内トップクラスの選手を集めた日本実業団選抜選手権大会「京冬カップ」の開催、世界10か国以上から選手が参加する国際大会、「WATAKYU-CUP」を主催するなど、競技の振興に力を入れています。2017年のWATAKYU-CUPは、ポーランド(5月)・ドイツ(5月)・ブラジル(9月)にて開催しました。

2016年6月、ワタキューセイモア 代表取締役副会長 安道光二は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟会長に就任しました。日本発祥のソフトテニス競技は、子どもから高齢者まで幅広い世代で愛好される生涯スポーツとしての側面を持っています。国内のみならず、世界での普及・発展に、今後も積極的に活動していきます。

このほかにも、地域でのスポーツ大会への協賛や、各種競技や障がい者スポーツに個人で取り組み、世界レベルで好成績を収める社員を応援するなど、スポーツ支援に取り組んでいます。